



相及養活とてしう

目下不用に 確し

定ふあり又先哲

義ありらるる古

事ありてさるる

後足駁論はうと定哉

うと交はあ

うと珠：駁論

中うと不穩し又介

日也の書中より見比

何と改難く苦心中

ねは 三昧心むし温るるは 大秋生

思軒とて古下

